

ざ・ちゅうおう ぷれす

2020年7月号 第98号

発行：世田谷区立中央図書館

世田谷区弦巻3-16-8

TEL 3429-1811

FAX 3429-7436

図書館ホームページ（パソコン） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

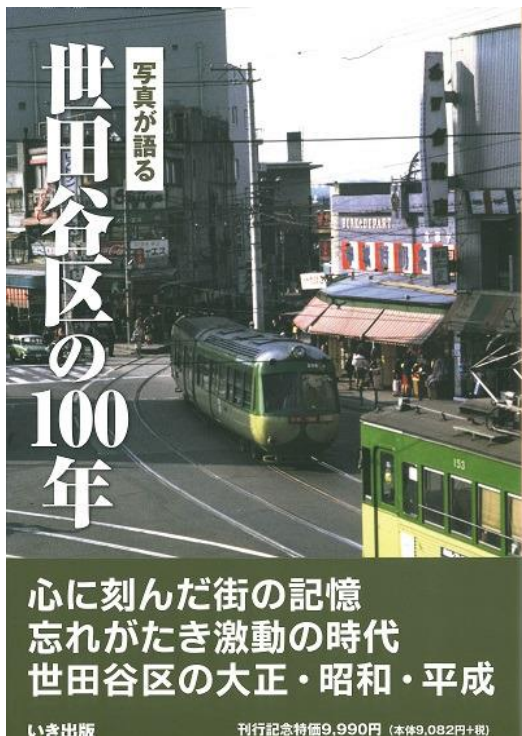
（携帯） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/i/>

「ざ・ちゅうおう ぷれす」は、世田谷区のホームページでもご覧いただけます。



世田谷について調べよう！！

新型コロナウイルスの感染拡大により、予定していた旅行や遠出ができなくなってしまった方が多いかと思います。こんな時こそ、身近な世田谷区について調べてみませんか？新しいお散歩コースを思いつくこと間違いなしです！



▲『写真が語る世田谷区の100年』
【GA2100】大正から現在までの写真がたくさん載っています。親子や三世代で一緒に見るのもおすすめです。

▲『地図で見る世田谷—平成29年度特別展図録一』【GA2100】世田谷区郷土資料館で所蔵している、明治から昭和の地図が収録された図録です。解説付きで、読み物としても楽しめます。

中央図書館カレンダー

7月							8月							9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5					1	2	3
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24
26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30	31				
							30	31																			

開館時間

火～日 10:00～19:00

月・祝・休日 10:00～17:00

■ は、中央図書館休館日です。

■ は、17時に閉館です。

THE SETAGAYA CENTRAL LIBRARY PRESS

せたがやで紡がれた♪ 古関裕而のメロディー

NHK 連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルである古関裕而。彼の作った曲を聴き、懐かしく思う方も多いはず。ドラマを見ていると福島出身のイメージが強いですが、実は世田谷にゆかりがあるのです。

人々を元気づけてきた数々の名曲が世田谷で生まれていたと想像すると、なんだかワクワクしてきませんか♪

古関裕而ってどんな人??

明治42年（1909年）、古関裕而は福島市に生まれました。幼い頃から音楽の才能を発揮していましたが、音楽学校への入学は断念し、親戚が営む銀行に勤めた時期もありました。

それでも音楽活動を続けた結果、古関が作曲した曲「竹取物語」が国際音楽コンクールで入選し、イギリスへの音楽留学の話が持ち上がります。しかし、当時の経済事情などにより留学も断念することになりました。

その後、妻・金子と結婚。昭和5年には日本コロムビアの専属作曲家となり、金子と共に上京します。

晴れて音楽を職業にすることとなった古関ですが、ヒット曲が生まれずしばらくは苦悩する日々が続きます。クラシックの音楽家として思い描く音楽と周囲から求められる音楽が異なることに葛藤することが多かったようです。それでも、その2つの要素を両立させることをあきらめずに作曲と向き合い続け、ようやく世間から認められる作曲家となったのです。

戦中・戦後と古関が置かれる環境や求められる音楽はめまぐるしく変化していきましたが、数々の困難を乗り越えた古関だからこそ人々を勇気づける名曲が生まれたのです。



▲古関裕而と妻金子



▲自宅でオルガンを弾く古関裕而

♪ 代表作 ♪

- 「紺碧の空」（早稲田大学応援歌）
- 「大阪タイガースの歌」（阪神タイガース応援歌）
- 「とんがり帽子」（ラジオドラマ「鐘の鳴る丘」主題歌）
- 「栄冠は君に輝く」（高校野球テーマソング）
- 「モスラの歌」
- 「オリンピック・マーチ」 など

福島市古関裕而記念館より写真を提供していただきました。こちらの記念館には楽譜の展示や視聴コーナーなどがあるそうです。感染症が落ち着いた後、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



せたがやと古関裕而

古関裕而の妻・金子は昭和6年の春、帝国音楽学校に入学します。実はその学校が現在の代田5丁目にあったのです（1945年、戦災により焼失）。妻が通学する便を考えて世田谷に引っ越した古関は、以後その生涯を閉じるまで世田谷に住んでいました。

コラム①～世田谷踊り～

古関裕而と世田谷の関わりは、こんなところにも出てきます。

『世田谷区教育委員会二十年誌』によると、昭和28年（1953年）頃に世田谷区が社会教育の一環として「世田谷踊り」という踊りをつくりました。その際、作曲を依頼したのが古関裕而で、予算があまりなく歌詞は役所で募集してつくったことや、古関裕而には関係者が花びんを持って自宅にお願いしに行ったというエピソードが記載されています。

多くの作曲依頼を真摯に引き受けたイメージのある古関裕而。その人柄を感じることができるエピソードです。

ちなみに、経堂小学校の校歌も古関裕而作曲です♪

コラム②～古関裕而が影響を受けた音楽～

- ・音楽好きの父が購入した蓄音機から流れる音
- ・家の近くの教会から流れる讃美歌やオルガンの音
- ・汽車の音や機織りの音

古関は豊かな音に囲まれながら福島時代を過ごしていました。

「赤とんぼ」などの作曲者である山田耕作の音楽に影響を受けたことも知られています。海外に目を向けると、ドビュッシー、ラヴェル、ストラヴィンスキー、ムソルグスキーなどが活躍していた時代でした。これらの作曲家の曲を聴いてみると、古関独特の抒情的で力強くもありながら軽快な曲調が生まれたのも納得できるのではないのでしょうか。

図書館のCDで古関ワールドを楽しもう！

中央図書館では古関裕而の曲が収録されているCDを所蔵しています。

- ♪「スポーツ日本の歌—栄冠は君に輝く—
古関裕而生誕110年記念—」
（2019年）コロムビア合唱団〔ほか〕演奏
- ♪「古関裕而大全集—栄冠は君に輝く—」
（2007年）コロムビア吹奏楽団〔ほか〕演奏

※2つのCDに収録されている曲目は異なります。

古関裕而に関連してこんなCDもいかがでしょうか。

- ♪「山田耕作ピアノ作品全集」（1995年）
山田耕作 作曲
イリーナ・ニキティナ ピアノ
- ♪「ムソルグスキー：組曲《展覧会の絵》／
ラヴェル：ボレロ他」（2008年）
ヘルベルト・フォン・カラヤン 指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 演奏

今回参考にした本はこちら！

- 『きみに応援歌（エール）を 古関裕而物語（14歳からの地図）』 【J28 茶こ】
- 『評伝古関裕而—国民音楽樹立への途—』 【7621き】
- 『世田谷区教育委員会二十年誌』 【GA3732】
- 『昔の代田 改訂第3版』 【GA2100】

写真提供：福島市古関裕而記念館

第14回 世田谷区子ども読書活動推進フォーラム 「心をはぐくむ言葉と絵本」

2月8日（土）開催

言葉のもつ力と子どもの成長に焦点をあて、子どもの読書に関わる方々が集まり、講演会および情報交換を行いました。

第1部 講演：「あふれでたのはやさしさだった～奈良少年刑務所 絵本と詩の教室～」 寮美千子氏（作家）

少年刑務所での社会性を養うプログラムに携わられたご経験について語っていただきました。少年たちが安心・安全だと思える環境を作り、向き合うことで、彼らの本心が詩にのせて



自ら出てくる。それを辛抱強く待ち、ありのまま受け入れることで、凍てついた心が耕されていく。その過程に、参加者の中には涙を流す方もみられました。

第2部 講演：「絵本の向こうに、日本が見える～アメリカ生まれの詩人が、この国の「文学」と「これから」を語る～」 アーサー・ピナード氏（詩人）

自らの生い立ちに触れながら、子供時代に誰かとしてしっかりと向き合うことの大切さについてお話し

いただきました。長く読み継がれている名作絵本の社会背景や、言葉に込められた子どもたちへのメッセージについての解説には、長く子どもの読書活動に携わった参加者からも「初めて聞く話ばかりで興味深かった」と感想をいただきました。

第3部 質疑応答 参加者からの質問に、講師お二人にお答えいただきました。アンケートでも「お二人の対談をもっと聞きたかった」と好評でした。



フォーラムの内容をまとめた報告誌ができました。図書館、ホームページでご覧ください。

『父さんがかえる日まで』 モーリス・センダック 作 アーサー・ピナード 訳（偕成社）

この絵本は、1983年に『まどのそとの そのまたむこう』（わきあきこ訳、福音館書店）というタイトルで出版されましたが、2018年に改題され、ピナードさんの訳で新たによみがえりました。第2部の講演の中で読んでくださいました。

内容は、船乗りの仕事で家を留守にしているお父さんに代わって、まだ幼い赤ん坊の妹の面倒を見るアイダ。得意のホルンを吹いてあやそうと、少しよそ見をしたすきに、悪いゴブリンたちに妹をさらわれてしまいました。アイダは妹を取り戻しにいきます。

ピナードさんは、センダックの描くゴブリンとは、“互いに向き合うことのない僕ら”の間に入ってくるもの、心の隙間に入り込むものを指しているのだと言います。アメリカで出版された1981年当時より、今のほうが断然わかりやすい絵本だと。スマートフォンやテレビに気を取られ、人と本当の意味で向き合うことの少なくなった現代。考えさせられる絵本です。

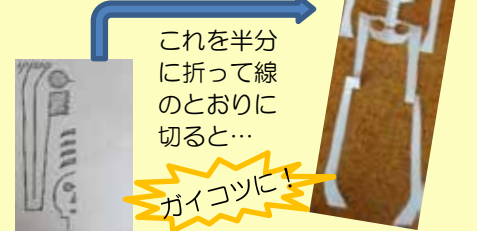


子どもの本の講座

多くの方に子どもの本や紙芝居の楽しい世界を知っていただこうと、毎年講座を開催しています。下記「学校おはなし会ボランティア講座（初級）」と同様、区立図書館の子どもサービス担当全員で取り組んでいる事業です。

1月22日（水）・30日（木）「なぜ？なに？かがくえほんっておもしろい！」

講師は科学読物研究会会員の高柳芳恵さん。1日目は科学絵本の楽しみ方や読み聞かせをする際の心得などの講義、2日目はいくつかの工作の実践。受講された方々は、「科学を身近に感じられる、たのしいおはなし会ができるようになった」と手応えを感じていました。



1月29日（水）「すてきな紙芝居の世界～その秘密と演じ方～」

in 梅丘図書館

壁画家・紙芝居作家の松井エイコさんをお迎えし、開催しました。紙芝居と絵本の違いや、紙芝居の演じ方などを熱心に伝授してください、会場は熱気にあふれていました。

2月5日（水）・12日（水）「児童文学を知らずして 人生は語れない」

in 上北沢区民センター

1日目は大阪国際児童文学振興財団理事長・武蔵野大学名誉教授の宮川健郎さんが、戦後の日本児童文学史について、わかりやすくお話をしてくださいました。

2日目は児童図書館研究会運営委員長の杉山さく子さんに「ブックトーク～今子どもが読んでおとなが読んでおもしろい本～」をグレード別に実演していただきました。テーマは、「本 ページをめくれば」「選ぶ・選ばれる」「世界を変えた果物 りんご」。ご紹介いただいた本はどれもとても魅力的でした。



連続5回講座

令和元年10月、11月

学校おはなし会ボランティア講座（初級）を開催しました

世田谷区立図書館では、毎年、小学校等でおはなし会ボランティアに携わっているの方々のための講座を開いています。今年も全体講義（2回）の講師には元浦安市立図書館司書の伊藤明美さんをお招きしました。読み聞かせ・ストーリーテリングをする際の心構えや、ご自身が図書館に勤めている中で経験されたエピソードなど、心に残るお話をたっぷりとお話していただきました。



講義の後は少人数グループに分かれての実習（3回）を行いました。区内で長年活動しているボランティアグループの方々から、実際の活動に即したアドバイスをいただきました。積極的に質疑応答を交わす熱心な参加者の皆さんには講師の方々も驚いたようで、実技も、初めてとは思えないほど完成度が高かったと感心していらっしゃいました。

特別整理って何だろう！？

中央図書館では、毎年5月に「特別整理」を行っています。今回はその作業の様子をご紹介します。

【特別整理とは】

特別整理の目的は、図書館の全資料の所在確認です。そのために、図書館にあるすべての資料とデータ（目録）を照合します。いわゆる、蔵書点検です。

本来あるべき資料がなくなっていないか、本棚の正しい位置に資料があるかどうかなどをチェックしています。

【特別整理の手順】

- ① 資料に貼られているICタグを専用リーダーで読み込みます。



中央図書館では平成30年からICタグを導入しました。それにより、蔵書点検の効率上がり、自動貸出機による貸出しが可能になりました。

中央図書館・保存庫にある資料の約60万冊の資料の読み込みを行いました。もちろん、雑誌やCDなどもです！

- ②リーダーで読み込んだデータをコンピューターに取り込み、目録のデータと照合します。そして、データ上は在庫なのに現物が無い資料のリストを作成します。
- ③②で作成したリストに載っている資料が本当かどうか、棚を見に行きます。このときに見つからない資料を「不明資料」と判断します。
- ④データを最新の状態に更新します。

一曝書（ばくしょ）とは—
昔は蔵書点検のことを「曝書」と言っていました。本来の意味は和書の虫干しのことで、昔は和書や唐紙からなる古書を広げて日光にあて風を通して紙魚（しみ）などの害を防ぐことを目的としていました。
昨今は洋装の図書が大部分を占めるのでその必要が薄れてきていますが、昔の名残でそう呼ぶこともあります。



作業終了！！
これで「データ上は在庫となっているのに、本棚にはない！！」という資料がなくなります。



本棚の掃除や破損している資料の修理も行っています。



新着図書案内



『なぜ僕らは働くのか』

池上彰 監修 (学研プラス)

やりたい仕事をどうやって見つけばいいのか、悩む人は多いと思います。本書は、進路を考え始める中高生に向けて書かれました。「働く」ことについて、網羅的に紹介されています。



身の回りの生活が多くの人々の仕事とつながっていることや、自分の人生とどう向き合い、どのように力を伸ばしていくべきなのかを教えてください。

本書は漫画とともに進行し、解説もイラストがふんだんに盛り込まれているので、気軽に読み進めることができます。ライフステージや転職、未来の働き方についても触れられており、中高生だけでなく、大人が読んでも新たな気づきが得られます。

【請求記号 3662 な】
※中高生向けの本です。

『図説デザートの世界』

ジェリ・クインジオ 著 (原書房)

現代では多くの方が手頃な価格でデザートを楽しむことができます。しかし、デザートが私たちにとって身近な存在となったのは、産業革命によってオープンや調理器具、冷蔵手段などの技術革新が起きた19世紀以降のことであり、中世では裕福な人しか食べられない高級品でした。また、例えばゼリーはシカの角、象牙の粉末などを材料とした食べ物であり、今とは全く違う食べ物でした。



本書では、中世から現代に至るデザートの世界の歴史や発展について鮮やかなデザートの写真付きで解説されています。歴史的な出来事が私たちの食文化の発展にどのような影響を与えたのかをおいしいデザートを食べるときのわくわくした気持ちを持ちながら知ることができます。

【請求記号 3838 く】

『JAL 機長たちが教えるコックピット雑学 飛行機とパイロットの仕事がよくわかる』

日本航空編

(JAL ブランドコミュニケーション)

本書は JAL の発行する機内誌、会員誌で過去に掲載された機長の連載を改題、再編集したものです。

機長に求められる資質やコックピットの中の秘密などについて書かれているほか、滑走路ごとの景色の違い、季節や天候で変化する景色など何度も飛行機に乗る機長だからこそ知っている空の旅の楽しみ方が紹介されています。



飛行機好きの方はもちろん、これまであまり飛行機に乗る機会がなかった方も、飛行機の魅力を発見することができる“雑学”が満載です。

【請求記号 6870 し】

『画家とモデル—宿命の出会い—』

中野京子 著 (新潮社)

画家は絵筆にどんな想いを込め、あるいはどのような眼差しで、モデルの姿をキャンバスへ描き出したのでしょうか。



本書では、『怖い絵』シリーズや『名画の謎』シリーズで人気を博している著者が18人の著名な画家を取り上げ、画家とモデルになった人物との知られざるドラマや時代背景などをひもとき、名画の成り立ちを解説しています。

解説が無くても絵画を鑑賞して楽しむことはできますが、本書で紹介されているような背景を知ることによって、見知っていたつもりの絵が奥行きを増し、その絵が持つ別の表情を見つめることができます。

【請求記号 7233 な】

♪図書館からのお知らせ♪



図書館や読書についての調査を実施しました！

世田谷区立図書館についてのアンケート調査

期間：11月29日（金）、30日（土）

対象：世田谷区立図書館全館の来館者

約7,000名の方にご協力いただき、約7割の方に「図書館で充実した時間が過ごせた」と感じていただけていることがわかりました。

「区立図書館に積極的に取り組んでほしいこと」という質問については、「蔵書や資料を充実」させてほしいという回答が最も多い結果となりました。

自由意見を記入いただく項目では、職員のレファレンス能力の向上を望まれるご意見など様々な声を寄せていただきました。

子どもの読書に関する実態調査

期間：10月1日（火）～10月15日（火）

対象：無作為抽出した区内在住者

※5歳児、小学3年生・6年生、中学3年生の児童・生徒とその保護者

5年に1度行っている調査で、令和元年度が調査対象の年でした。5年前と比べて子どもたちの本を読む機会が減ってきているようで、その理由は「忙しくなったから」という回答が最も多い結果となりました。一方で、小学3年生で「地域の図書館のおはなし会に参加したことがある」と回答した子が増えており、図書館員にとって嬉しい結果を見ることができました。



ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！いただいたご意見を今後の図書館サービスの向上に活かして参ります。詳細をまとめた冊子は図書館で貸出しているほか、図書館ホームページにも掲載しています。

どくしょノートを配布しています！

自分が読んだ本のタイトルや感想を記録できる「どくしょノート」を赤ちゃんから高校生までの方に配布しています。

たくさん本を読んでノートが埋まると達成感を得られるはず。おうちの時間を楽しむ方法として、ぜひご活用ください！2冊目もどうぞ！



編集後記

イギリスやニュージーランドなどで、ロックダウン中の子どもたちの気を紛らわせるために窓辺にテディベアを置く人々が現れました。この取り組みはイギリスの児童文学作家マイケル・ローゼンの絵本「We're Going on a Bear Hunt」（『きょうはみんなでクマがりだ』評論社）から着想を得ていると言われています。4人の子どもと父親が熊探しの探検に出かけるというお話。見慣れた街の景色がたちまち絵本の世界に変わり、子どもたちの楽しみが増えたに違いありません。

今年度に入ってから、「図書館員としてできることは何だろう」と考えることが多くありました。図書館員の仕事は人と本をつなぐこと。世田谷区立図書館で一人でも多くの方が心に残る本と出会っていただけるよう、今後も力を尽くして参ります。